

天ぷら

2020.12.11

これから教壇に立つ皆さんに伝えたいことがある。教員になって3年目までが勝負である。どんな教員になるか、どんな教員になれるかは、採用後2～3年で決まってしまう。「職能発達上の変化は経験3年目までに生起する」という言葉がある。授業に関する力量、学級経営に関する力量など、スタートダッシュが大切である。経験年数とともに、それぞれ教員として伸びていくが、その「伸びる角度」が変わってきてしまう。この角度が重要である。

こういう言葉がある。これからも天ぷらを食えることがあるだろうから、天ぷらを食えるたびに思い出してほしい。

「天ぷらを揚げるには40℃の油に何時間つけてもくったりするだけでしょ。ところが170℃にすると、3分かそこらで一気にからっと揚がる。そこまで到達するエネルギー、熱意を出さない限り、いつまでたっても天ぷらは揚がらない」

日々の努力、毎年の積み重ねは大切である。それをベースとして、短期間で一気に変える、身に付けることも必要である。いつ本気で最大パワーで取り組むかである。「勝負の1年」をいつにするか。目の前に巡ってきた「チャンス」を逃さないことである。

以前、授業参観の要請を受けて、只見町の小学校に授業を見に行っていたことがあった。授業者は、10年目くらいの女性の先生だった。参観した授業はすばらしいものであった。その先生には、授業の基礎技術というものが備わっていた。それは、一朝一夕に身に付くものではない。10年の間に、この先生がいかに努力を積み重ねてきたかがわかる授業であった。

事後の研究会で、私は彼女に「先生の授業は、若い先生方にぜひ見せたい授業でした。先生はあのような指導技術をどこで、どのように身に付けたのですか」と聞いてみた。すると、彼女はいきなり「先生、私、自分を変えたいんです。自分の殻を破りたいんです」と言ってきた。その後は、参観した授業のことは脇に置いて、彼女の今後について、いろいろと話をした。

3年経ち、私がたまたま只見町の隣の金山町の小学校に勤務することになった。彼女が勤務する学校から「ESDの授業公開」の案内が届いた。ESDについて勉強したかったし、彼女のその後の成長を見てみたい思いもあり申し込むことにした。当日、彼女の授業を参観すると、彼女は、さらにすばらしい授業者になっていた。いい意味で力が抜け、しっとりとした授業になっていたのである。

授業が終わってから、彼女にあいさつにいった。彼女は私が来ていることがわかり緊張したそうである。私は彼女に「さらにパワーアップしたけれど、力が抜けてごく自然に、しっとりとしたいい授業になりました」と伝えた。指導技術もさることながら、子どもをよく見ている点もぜひ若い先生方に見習ってほしい授業であった。3年前は、すばらしいことは確かだが、力が入りすぎていたと思う。力みが取れていい具合になっていた。

(次号に続く)